

## 感染症の予防のための情報提供について

病 名	腸管出血性大腸菌感染症 (O157)				
年齢及び性別	72才・男性	職 業	無職		
住 所	津市				
発病年月日	令和 元年 8 月 7 日				
診断年月日	令和 元年 8 月 19 日				
(患者発生の経過)					
8 月 7 日 軟便がみられた。					
8 月 9 日 軟便が継続し、血便もみられたため、津市内の診療所を受診した。					
8 月 10 日 軟便、血便が継続するため、津市内の病院を受診した。					
8 月 11 日 徐々に症状の軽快がみられた。					
8 月 19 日 8 月 10 日の便検査から、腸管出血性大腸菌感染症と診断された。					
8 月 20 日 患者に症状はありません。					
【防疫措置】 接触者の健康状況調査及び検便の実施 (津保健所)					
【県内での腸管出血性大腸菌感染症の発生状況】 (四日市市保健所分を含む)					
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
患者	27	29	29	32	11
保菌者	10	15	13	19	10
計(感染者)	37	44	42	51	21
※2019年1月1日～2019年8月19日現在まで本件含む					
2019年内訳 患者：O157 (8人) O26 (2人) O111 (1人)					
保菌者：O157 (2人) O26 (5人) O103 (1人) O115 (1人)					
型不明 (1人)					
【自分でできる対策】					
1 予防の3原則					
① 加熱 (菌を殺す)					
この菌は熱に弱く、75℃、1分の加熱で死滅します。					
肉の生食は避けて下さい。特に子どもや高齢者は注意して下さい。					
ひき肉は、十分に加熱をしましょう。					
焼き肉を食べる時は、生肉を取る箸と食べる箸を使い分け、よく焼きましょう。					
井戸水は、煮沸してから飲んで下さい。					
② 迅速・冷却 (菌を増やさない)					
調理した食品はすぐに食べましょう。					
冷蔵や冷凍の必要な食品は、持ち帰ったらすぐに冷蔵庫 (10℃以下) や冷凍庫 (-15℃以下) に入れましょう。					
③ 清潔 (菌をつけない)					
手指や調理器具は十分に洗いましょう。					
2 暴飲暴食を避け、睡眠を十分にとるなど体力・体調を保って下さい。					
3 腹痛・下痢等の症状がでた場合、すぐに医師の診察を受けて下さい。					